



# 未来へ

埼玉県立川越高等学校  
進路通信「未来へ」1号  
令和3年4月8日  
発行 進路指導部

## ◎ 過去3年間の主要大学入試結果 (4/8 現在)

国公立大学	2021春	2020春	2019春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
北海道大	7 (6)	12 (5)	10 (4)
東北大	12 (6)	21 (13)	10 (6)
筑波大	6 (3)	11 (9)	14 (11)
埼玉大	22 (15)	34 (25)	23 (18)
千葉大	10 (9)	11 (7)	6 (3)
東京大	4 (1)	7 (4)	3
東京工業大	10 (4)	5 (3)	7 (5)
一橋大	8 (5)	5 (5)	11 (7)
東京農工大	17 (11)	14 (11)	9 (5)
東京学芸大	9 (5)	3 (1)	4 (3)
東京芸術大		2	1 (1)
東京外国語大	3 (3)	2 (2)	5 (3)
東京海洋大	4 (4)	2 (2)	2 (1)
電気通信大	5 (5)	2 (2)	2 (1)
横浜国立大	12 (7)	10 (7)	12 (4)
名古屋大	2	2 (1)	2 (1)
神戸大		1	3
京都大	5 (2)		1
大阪大	4 (1)	2	1
九州大	2 (1)		2 (2)
東京都立大	11 (10)	5 (3)	8 (5)
その他の大学	30 (18)	33 (16)	38 (13)
合計	183 (116)	184 (116)	175 (94)

	2021春	2020春	2019春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
国公立難関大※	63 (29)	66 (37)	54 (26)
国公立医学部(医学科)	9 (3)	12 (6)	7 (1)

※ 旧帝大+東工大・一橋大・国公立医学部

私立大学	2021春	2020春	2019春
	合計(現役)	合計(現役)	合計(現役)
早稲田大	118 (72)	84 (58)	92 (60)
慶應義塾大	51 (28)	30 (14)	36 (13)
上智大	26 (16)	12 (11)	11 (3)
東京理科大	107 (59)	87 (50)	93 (58)
明治大	166 (103)	97 (61)	146 (91)
青山学院大	19 (11)	14 (10)	11 (6)
立教大	37 (24)	54 (38)	51 (30)
中央大	65 (42)	69 (52)	72 (27)
法政大	76 (38)	61 (31)	85 (38)
学習院大	18 (9)	16 (11)	13 (4)
芝浦工業大	57 (35)	65 (41)	66 (36)
私立医学部(医学科)	9 (4)	19 (2)	16
その他の大学	328 (168)	324 (177)	348 (150)
合計	1068 (605)	913 (554)	1024 (516)

## ◎ 東京大内訳

理科Ⅰ類	2	
理科Ⅱ類	2	(1)
計	4	(1)

## ◎ 国公立医学部内訳

東北大	1	
弘前大	1	(1)
新潟大	1	(1)
京都府立医大	1	
奈良県立医大	1	
鳥取大	2	
愛媛大	1	(1)
琉球大	1	
計	9	(3)



## 昨年度の入試全体を振り返って

昨年度は、大学入学共通テスト初年度という大きな入試変革の年でした。共通テストは一昨年度、英語外部検定試験の全員実施の延期や、国語と数学で導入予定であった記述式問題の導入延期（2021年4月2日に文部科学省は正式に導入を断念）が決定されるなど、当初の制度設計が大きく揺らいだまま実施年度に突入しました。加えて、昨年度は新型コロナウイルスへの対応から、大学入学共通テストの複数日程での実施や、感染者への救済措置として入試の複数実施、2次試験を実施せずに共通テストのみで合否を判定する国公立大学が出るなど、直前になって入試の変更が相次ぎました。

こうした非常に難しい社会状況の中での、前例のない大学入試となりましたが、結果を見てみると、平均点5割を目指すといわれていた共通テストは平均点がおおむね6割と、それまでのセンター試験とほぼ変わらない平均点となりました。また、国公立大学や私立大学の個別試験については、センター試験最終年度となった一昨年度に引き続き、昨年度も難関大への志願者数は増加せず、弱気な出願傾向が継続しました。

## 本校の入試結果を振り返って

先の見えない中での入試となりましたが、厳しい状況乗り越えて、結果は素晴らしいものとなりました。国公立大学については、ここ20年で過去最高の合格者数となった一昨年に引き続き、現役生では116名の合格者となりました。内訳も、東京大学や一橋大学、東京工業大学といった難関国公立大や医学部の合格者をバランスよく出しており、質と量を兼ね備えた結果となりました。また、後期で現浪合わせて30名以上が合格しており、苦しい中でも最後まで諦めずに粘り強く戦った生徒が多かったのも特筆すべき特徴です。センター試験から共通テストに変わっても、特に国公立の2次試験に必要な学力は変わりません。学力は、学習した時間と内容に比例して必ず伸びます。難関大を志望している人は特に、早期からの学習の積み重ねを心がけてください。勝負は入学時から始まっています。2・3年生はもちろんのこと、1年生も日々の学習を積み重ねていって下さい！

私立大学については、早慶を中心とした難関大で昨年を大幅に上回る結果となりました。特に早稲田大学では、私立大学の定員の厳格化が大きく進められた2017年以降初めて、現浪あわせた合格者が3桁となり、慶応義塾大学でも現役合格者が倍増しました。厳しい状況の中で、全体として早く合格を決めたいという流れが強かった昨年度ですが、最後まで頑張った昨年度の3年生の粘り勝ちともいえるでしょう。休校期間もあった中、生活面でも学習面でもしっかりと自分を律して志望を下げずに最後まで頑張った生徒が多かったです。私立大学を中心に考えている人も、3教科だからと気を抜かずに、その3教科のスペシャリストになるつもりで、早期からの学習を重ねてください。

## まずは学習習慣の確立を！！<今年も！！>

毎年のこの号に載せていますが、今年もまた改めて載せます。日々の学習の参考にしてください。

### (1) 毎日の絶対的な学習時間を確保する

部活や行事などで忙しい毎日ですが、日々の学習なしでは学力向上は望めません。すき間時間（電車などの通学時間、学校での休み時間など）を活用するのはもちろんですが、特に数学や理科の問題にじっくり取り組むために、まとまった時間（最低でも1時間以上）を作り出してください。食事の前、寝る前、朝早くなど、生活スタイルによってタイミングは違うと思いますが、毎日固定すると続けやすくなります。毎日の学習時間の総合計としては、平日：(学年+1)時間、休日：(学年+3)以上を目指してください（難関大志望者は平日：(学年+2)時間、休日：(学年+4)時間以上）。余談ですが、過去；東大と医学部に合格した先輩は、それぞれ夏休みに合計500時間（1日平均10時間以上）やっていました。時間をしっかりかけた学習をしましょう。あと、スマホは1日30分まで！！<某予備校の調査では、現役合格者の1日のスマホ平均使用時間は、ゲーム0分、ラインなどの連絡・通話30分、でした！！>

### (2) 目標を高く持つ

大学入試で大切なのは、“行きたい大学”を高く掲げることです。“東大とか自分が目指しているのかな…”と言う人もたまにいますが、川越高校に通っている以上、どの大学も目指す資格があります。自分がどこまで伸びるのかにチャレンジするのも、大学受験の大きな意義のひとつです（川越高校生は目標とした大学の分だけ伸びます）。“この大学を志望しているんだ！！”と臆せずに言ってみてください。同じような仲間がきっといるはずです。そういう仲間をお互いに見つけて、時には励ましあいながら切磋琢磨してください。我々も皆さんの志望校への頑張りを全力でサポートします。